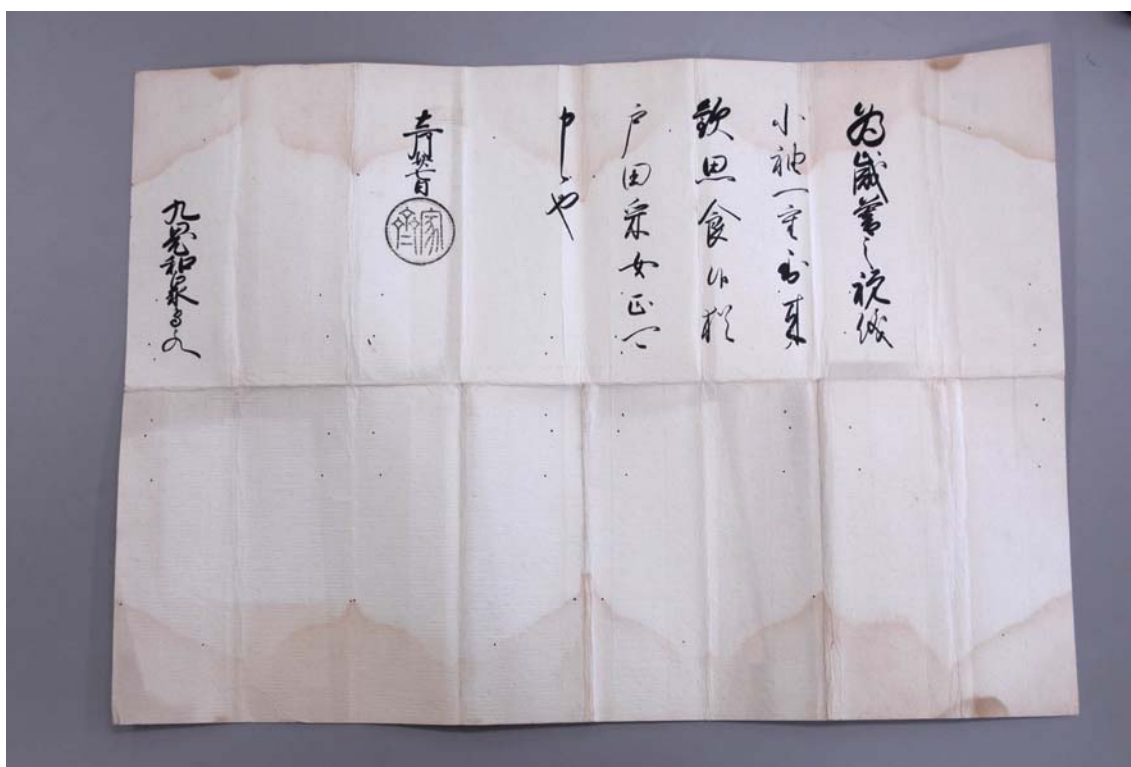


『三田市史』第4巻近世資料（158頁45号）

徳川家斉黒印状（年未詳）三田市所蔵九鬼文書



為歳暮之祝儀、
小袖一重到来
歎思食候、猶
（氏教）
戸田采女正可
申候也

十二月廿七日（黒印）
（徳川家斉）

九鬼和泉守とのへ
（隆国）

○この文書は江戸幕府第11代将軍徳川家斉が、発給した黒印状（黒色の将軍印を捺した文書）であり、御内書（ごないしょ）ともよばれる様式の文書です。文中にみえる戸田采女正氏教は老中として家斉の意向を承り、取り次ぎ役を果たした人物です。なお黒印の印文は「家斉」と判読できます。

内容は歳暮の祝儀として九鬼和泉守から将軍家斉に献上された衣服に対する返礼で、「節季礼状」にあたります。宛名の和泉守という受領名（形式的な官職名でこの場合は和泉国＝現在の大阪府南部の国主）を市史第4巻近世資料の31・32号として掲げた九鬼家の譜と照合すれば、九鬼隆国であることがわかります。料紙（用紙）には65.2cm×46.3cmの大判で厚手の「奉書紙」を、折紙（横に半折した体裁で書簡としての形式）にしてもちいています。

（三田市総務課市史編さん担当）